

2014/07/18 愛知県 豊田版

乗斥

月号

2014年(平成26年)7月18日(金曜日)

利用者増へ絵本活用



こうむらさん(左)から教わって製本作業をする外山さん＝豊田市藤岡飯野町の藤岡ふれあいの館で

豊田市藤岡飯野町の「藤岡ふれあいの館」が利用者増を狙い、絵本を活用した施設づくりを力を入れている。今春、職員による読み聞かせを始めたのに続き、オリジナル絵本を作製。八月からは市在住の絵本作家こうむらゆきなさん(右)を招き、絵本創作のワークショップも催す。(諏訪慧)

同館は、空調設備の整った多目的ルームなどがあり、スポーツや文化活動を快適に楽しめる市の施設。ことし四月から市文化振興財団に代わり、「ホームページ」が指定管理者として運営している。

しかし、地元ですら存在を知らない人が少なくない穴場的な施設。それゆえ「予約の取りやすさが魅力の一つ」という皮肉な現状になっていて、対策を検討してきた。

そつした中、着目したのが絵本。同館では四月から、パート職員の外山良宏さん(左)が、スポーツを楽しむ親を待つ子どもの寂しげな姿を見たのをきっかけに絵本の読み聞かせを始め、好評を博している。絵本を施設の目玉とし、まずはオリジナル絵本作りに取りかかった。

題名は「おじいちゃんの

藤岡ふれあいの館 読み聞かせや独自作品

すいかのひみつ」。スイカ栽培の得意なおじいさんとその孫のふれあいを描いた内容で、スイカ作りが趣味という外山さんが文章や絵を考え、こうむらさんから助言を受けて仕上げた。

今月二十一日には午前十時から絵本の完成を記念したイベントを開催。読み聞かせのほか、スイカ割りやスイカの食べ放題を無料で楽しんでもらう。

また、八月二十四日から絵本創作のワークショップを始め、来年二月まで計六回を催し、定員は各回先着二十人。参加費は一回につき九百円。申し込みは八月七日から受け付ける。

外山さんは「絵本を通じて、世代を超えてさまざまな人に施設を利用してほしい」と話している。☎藤岡ふれあいの館 電話0565(75)2105

(c)中日新聞社 無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています